

MRI 造影検査の説明

● MRI 造影検査とは

MRIの検査に使用される薬(造影剤)は、検査前もしくは検査中に、腕の血管(静脈)から注射します。磁気を利用したMRIでは、ガドリニウムや鉄の成分を含んだ造影剤を使用することで、血管や血液の流れ、病巣部の鮮明な画像を得ることができます。ただし、まれに造影剤による副作用を生じることがありますので、以下に説明します。



● 造影剤の副作用

副作用の頻度は、軽微なものを含め1%程度といわれています。

- ◎軽度(一時的)の副作用：吐き気、おう吐、熱感、発疹、じんま疹、めまい等
- ◎重度(10万人に一人程度)の副作用：血圧低下、呼吸困難、死亡
- ◎その他：注射部位の腫れ、炎症等

※副作用は、数時間後から数日後に症状が現れるものもあります。お気づきの点がありましたら下記お問い合わせ先までご連絡ください。

● 副作用が生じやすい状態

以下の事項に該当する場合は、医師にご相談ください。

- ①以前に、MRIやCT用の造影剤で具合が悪くなったことがある
- ②気管支ぜんそくやアレルギー体質と診断されている
- ③重い腎臓病があると診断されている
- ④妊娠中である(胎児への影響があるかもしれないため)
- ⑤授乳中(検査後24時間以内の母乳を搾乳して廃棄すれば、その後は授乳できます)



※以前の検査で副作用が出ていなくても、今回の検査で副作用が出ることもあります

● お問い合わせ先

北星記念病院 地域医療連携室 電話(0157)51-1234 FAX(0157)51-1230